

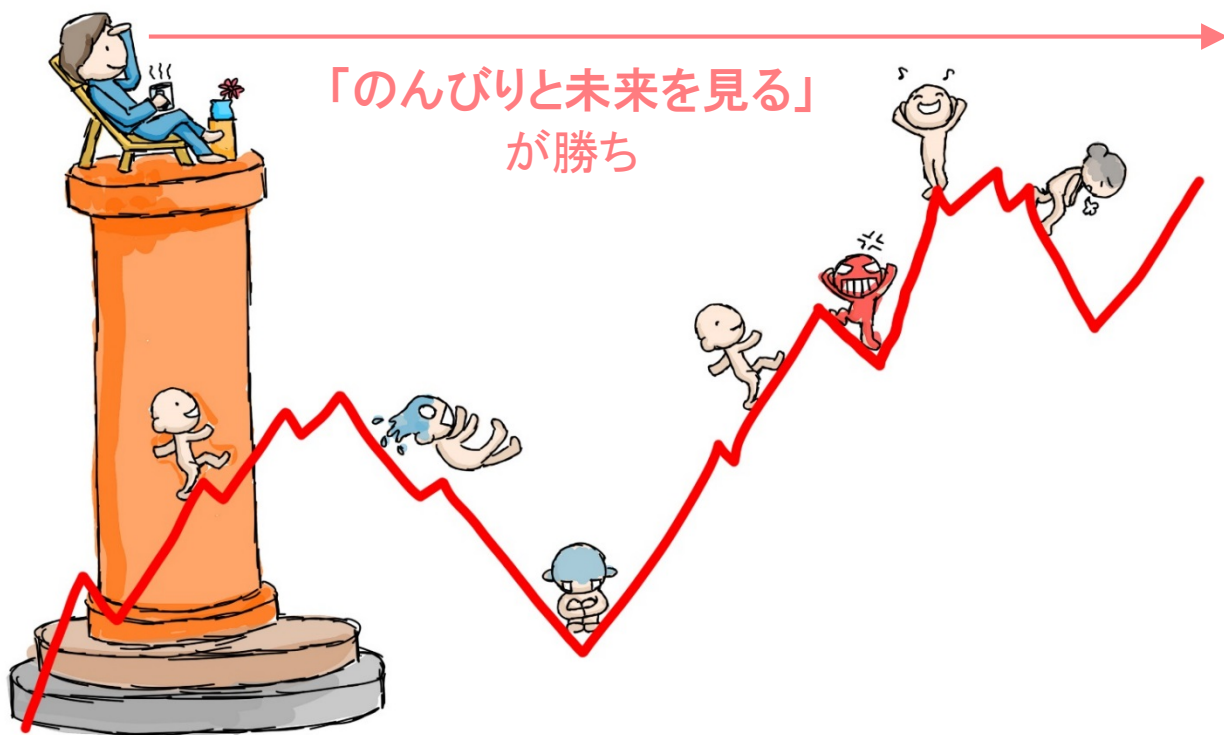
2019年4月24日

Vol
123

「GW10連休」だから売る？

コールセンターでは様々なお問い合わせをいただきますが、時に「そんな風に考える人もいるのだなあ」と少し残念に思うことがあります。たとえば今週末から始まるゴールデンウィーク。「10連休中に何があるか分からないから、とりあえず売った方がいいよね？」といった、投信保有者からのお電話です。

投資家の一部にそのような考え方があるのは事実で、特に個別株式の売買などではそうした傾向が強いようです。しかし、投信を使った個人の資産運用の観点からは違和感を覚えざるを得ません。



□当資料は、日興アセットマネジメントが投資信託の仕組みについてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する内容は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。□投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。



短期投資家の行動に影響を受けるのは事実

確かに投資の市場には、日々何らかのニュースを取り上げては売ったり買ったりする「短期投資家」が大勢います。「相場を張る」という言葉がありますが、まさに株式市場などを舞台に、勝つか負けるかの勝負をしているように見えることもあります。あまり言われませんが、お客様が投信を買うということは、好むと好まざるとに関わらず、そうした人たちと同じ「勝負の場所」に立ち入ってしまうことを意味します。なぜなら、日々の株価等は需給、つまり買う人が多いか売る人が多いかで決まってしまうため、どうしてもその「短期投資家」の影響を受け、お客様の投信の基準価額もそれを反映することになるからです。

「見ているもの」は違っているべき

しかし、だからといって投信を保有するお客様自身が、彼らと同じ考え方で行動すべきではないはずです。GW前に売っておいて、何かあって下がったら買いなおし、逆に上がっていたら、遅れまいとすぐに買うかどうかの判断をする。電話のお客様は、そんなことをするためにその投信を買ったのでしょうか。そうした面倒やストレスを、フィーを払って他人に委託する仕組みが投信ですし、お客様の資産運用の目的と時間軸はそもそも、「10日のGWでどうする？」とは違う次元にあったのではないのでしょうか。

投資の市場はひとつですから、お客様は「短期投資家」と同じ場所にいるといえます。しかし彼らとは、「見ているもの」はまったく違っているべきではないのでしょうか。前ページの絵のように「有象無象」のアタフタを尻目に、前を向いてのんびりと資産運用を続ける人こそが、最後に笑うのだと日興アセットは信じています。

nikko am



コールセンター

0120-25-1404

営業時間 平日 9:00~17:00

